

2006年10月

全国の30～60代の既婚者800名に聞いた 『夫婦関係に関するアンケート調査』

～配偶者に不満がある夫45%・妻66%、配偶者を信頼している夫74%・妻48%、配偶者に感謝している夫98%～

第一生命保険相互会社(社長 斎藤 勝利)のシンクタンク、(株)第一生命経済研究所(社長 石嶺 幸男)では、全国に居住する30～60代の既婚男女800名を対象に、標記についてのアンケート調査を実施いたしました。

この程、その調査結果がまとまりましたのでご報告いたします。

《調査結果のポイント》

夫婦の日常習慣 (P2～5)

- 配偶者の呼び方で最も多いのは、夫「ママ・お母さん」(33%)、妻「パパ・お父さん」(49%)。
- 食事を夫婦一緒に毎日食べている人の割合は、朝ごはん44%、晩ごはん56%。
- 全体の7割が夫婦同じ部屋で寝ているが、50代以上になると別々の部屋が増える。
- 配偶者の誕生日に毎年プレゼントを必ず贈っている人は約4分の1(26%)。

夫婦共通の趣味 (P6～8)

- 夫婦共通の趣味がある人は6割近く(57%)いるが、一緒にしているのは3割しかない。
- 夫婦共通の趣味で最も多いのは「旅行」で、30代の57%から60代では70%にも上る。
- 夫婦共通の趣味がない人の中で、今後共通の趣味づくりに前向きな人は3分の1以上(36%)。

夫婦ゲンカ (P9～11)

- 普段夫婦ゲンカをしている人は過半数(52%)おり、最も多いのは30代。
- 夫婦ゲンカで先に怒り出すのは、夫(37%)よりも妻(43%)の方が多い。
- 夫婦ゲンカの仲直りで先に謝るのは、妻(13%)よりも夫(30%)の方が多い。

配偶者への不満 (P12～13)

- 配偶者に対して不満がある人は過半数(56%)おり、夫(45%)よりも妻(66%)の方が多い。
- 不満の原因で最も多いのは「性格全般」(52%)で、次いで「金銭面の価値観の違い」(32%)、「家事の役割分担」(24%)、「子育ての価値観の違い」(18%)、「性生活」(17%)。

配偶者への思い (P14～17)

- 配偶者は自分の思いを言わなくても理解してくれていると思っている人は6割以上(64%)いる。妻(51%)よりも夫(77%)の方が多く、特に、50代と60代の夫では8割以上にも上る。
- 配偶者を信頼している人は6割(61%)、配偶者から信頼されていると思う人は4割(41%)。配偶者を信頼している人は、妻(48%)よりも夫(74%)の方が多い。
- 配偶者と一緒にいると心が安らぐ人は8割(81%)おり、妻(73%)よりも夫(89%)の方が多い。
- 配偶者に感謝している人は9割以上(95%)おり、妻(92%)よりも夫(98%)の方が多い。

<お問い合わせ先>

(株)第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部
研究開発室 広報担当 (丹野・新井)
TEL. 03-5221-4771
FAX. 03-3212-4470

【アドレス】<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi>

《アンケート調査の実施概要》

1. 調査地域と対象 全国に居住する 30～60 代の既婚男女
2. サンプル数 800 名
3. サンプル抽出方法 第一生命経済研究所生活調査モニター
4. 調査方法 質問紙郵送調査法
5. 実施時期 2006 年 1 月
6. 有効回収数(率) 769 名 (96.1%)
7. 回答者の属性

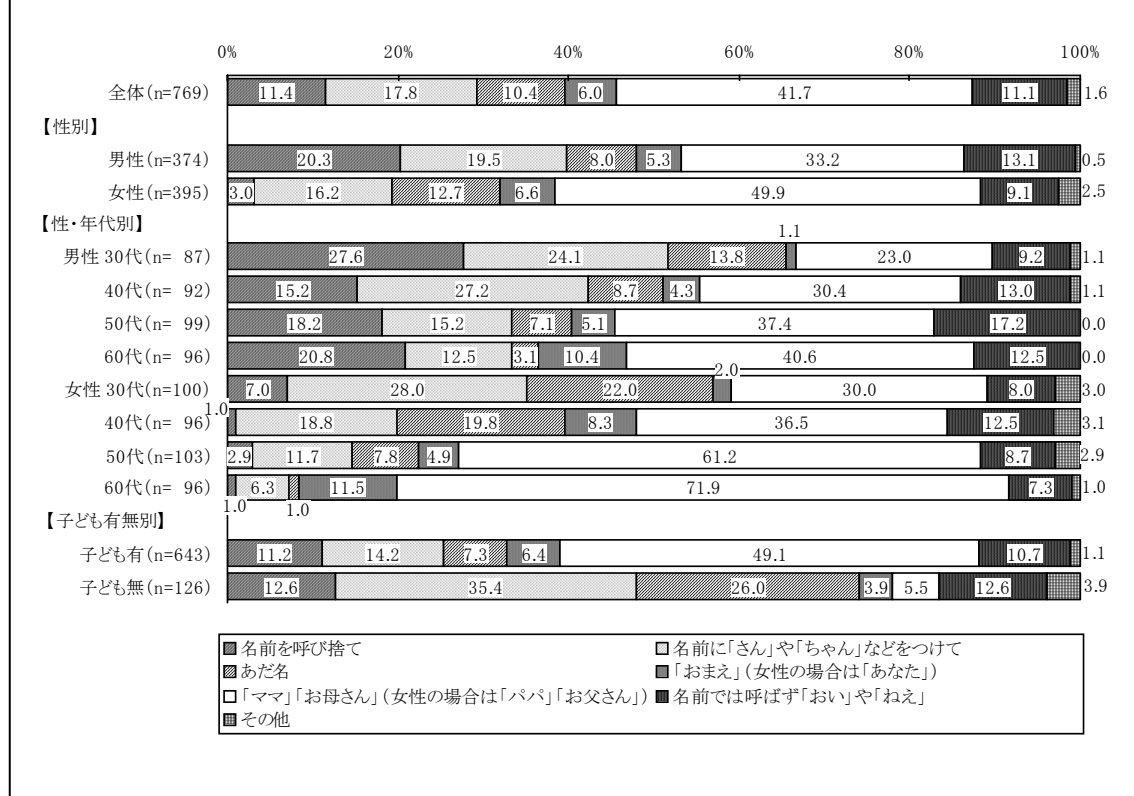
(単位:人)

	年代				合計
	30代	40代	50代	60代	
男性	87	92	99	96	374
	(23.3%)	(24.6%)	(26.5%)	(25.7%)	(48.6%)
女性	100	96	103	96	395
	(25.3%)	(24.3%)	(26.1%)	(24.3%)	(51.4%)
合計	187	188	202	192	769
	(24.3%)	(24.4%)	(26.3%)	(25.0%)	(100.0%)

配偶者を普段何と呼んでいるか？

男性では「ママ・お母さん」(33%)が最も多く、「呼び捨て」(20%)が続く。女性では「パパ・お父さん」(49%)が最も多く、「『さん』づけ」(16%)が続く。他の年代に比べて、男性では、30代で「呼び捨て」、50代で「おい」、60代で「おまえ」、女性では、30代で「『さん』づけ」、60代で「あなた」が多い。

図表1 配偶者を普段何と呼んでいるか？(性別、性・年代別、子ども有無別)



配偶者を普段何と呼んでいるか、を尋ねました。

その結果、「ママ・お母さん、パパ・お父さん」(41.7%)が最も多く、次いで多い「名前に『さん』や『ちゃん』などをつけて」(17.8%)とは大きな差がありました。

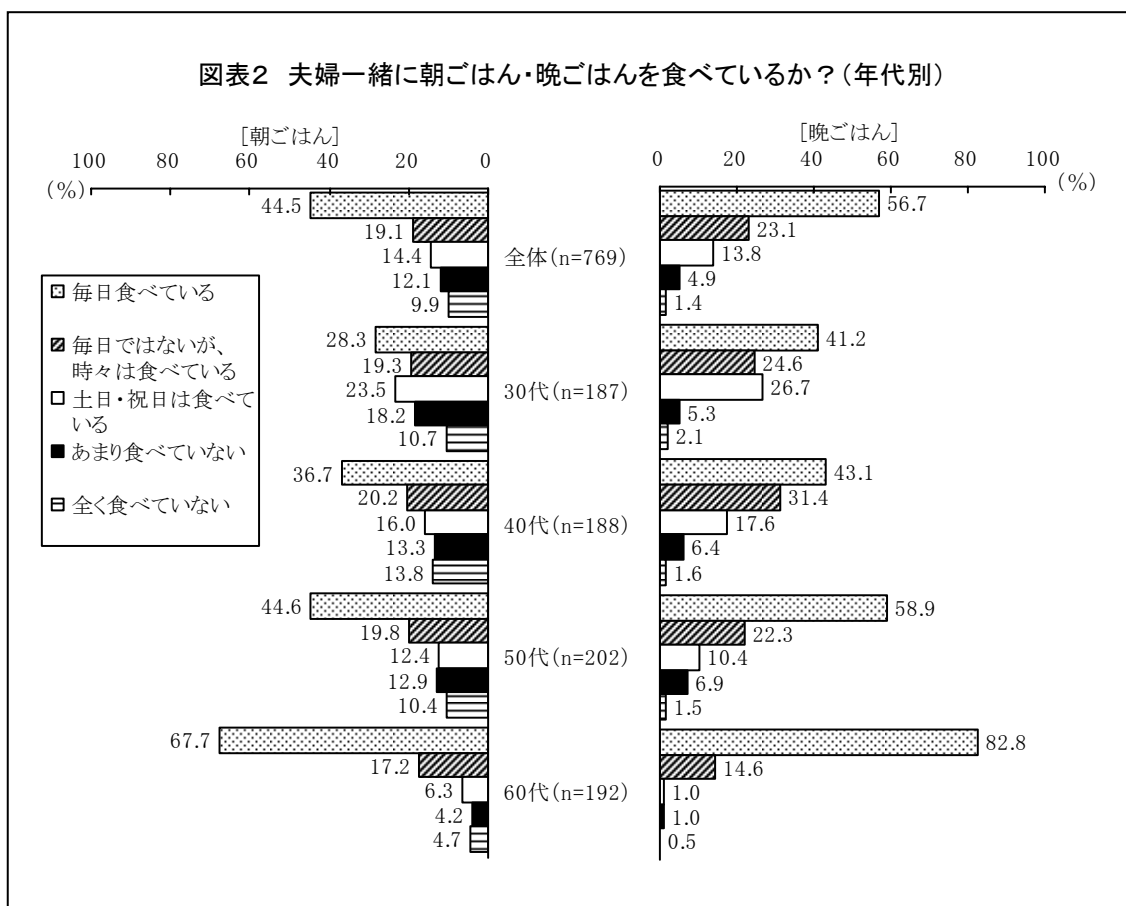
性別にみると、男性で最も多いのは「ママ・お母さん」(33.2%)で、次いで「名前を呼び捨て」(20.3%)、「名前に『ちゃん』などをつけて」(19.5%)の順でした。また、女性で最も多いのも「パパ・お父さん」(49.9%)で、次いで「名前に『さん』などをつけて」(16.2%)、「あだ名」(12.7%)の順でした。

性・年代別にみると、他の年代に比べて多いのは、男性では30代で「名前を呼び捨て」(27.6%)、50代で「名前では呼ばず『おい』」(17.2%)、60代で「おまえ」(10.4%)、女性では30代で「名前に『さん』などをつけて」(28.0%)、60代で「あなた」(11.5%)でした。

子ども有無別にみると、子どもがいない人では「名前に『さん』や『ちゃん』などをつけて」(35.4%)、「あだ名」(26.0%)が、いる人に比べて多いことがわかりました。

夫婦一緒に朝ごはん・晩ごはんを食べているか？

朝ごはんは44%、晩ごはんは56%が、夫婦一緒に「毎日食べている」。
 30代・40代・50代の3割弱が、朝ごはんを夫婦一緒に食べていない。
 30代・40代の4割以上が、晩ごはんを夫婦一緒に「毎日食べている」。



夫婦一緒に朝ごはん・晩ごはんを食べているか、を尋ねました。

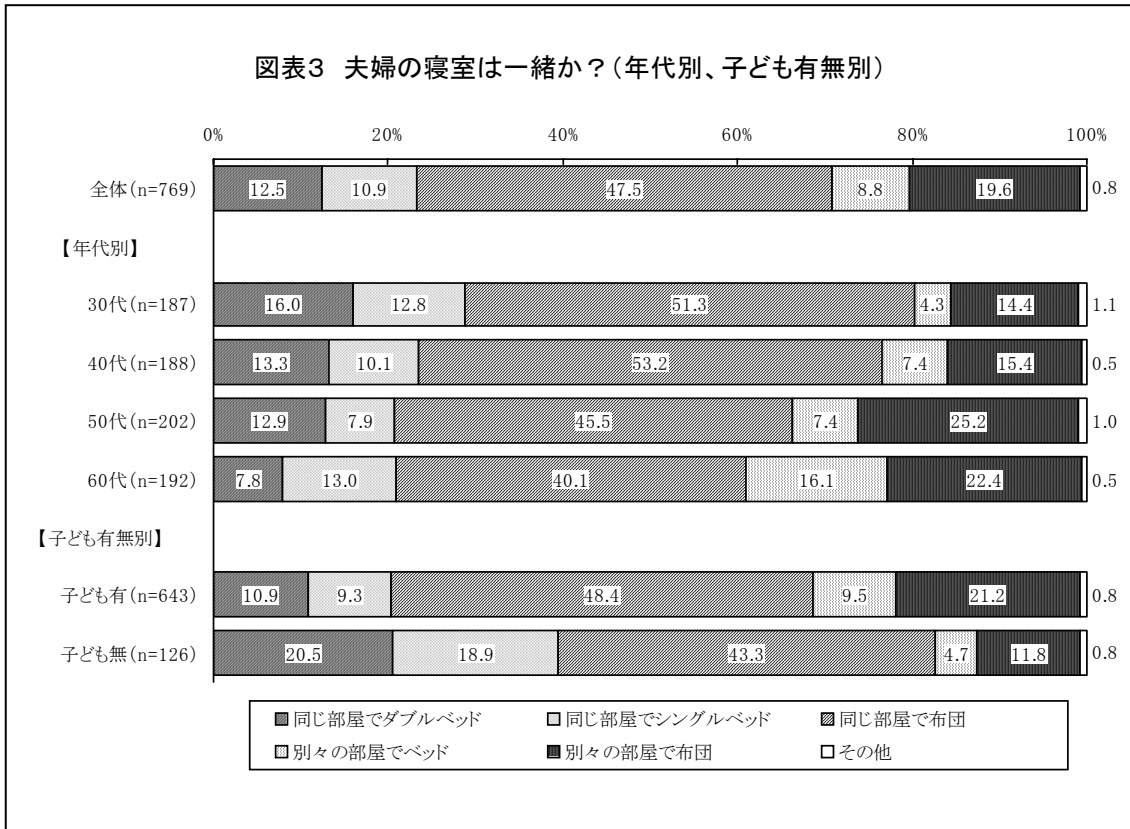
その結果、夫婦一緒に「毎日食べている」割合は、朝ごはんが44.5%、晩ごはんが56.7%であることがわかりました。

年代別にみると、朝ごはんを夫婦一緒に「毎日食べている」人は、年代が高くなるほど多くなり、最も少ない30代で28.3%、最も多い60代で67.7%でした。また、朝ごはんを夫婦一緒に「全く食べていない」人は、30代から50代までは1割以上おり、「あまり食べていない」をあわせると、これらの年代の3割弱は夫婦一緒に朝ごはんを食べていないことがみてとれます。

その一方で、晩ごはんを夫婦一緒に「毎日食べている」人は、30代(41.2%)と40代(43.1%)では約4割、50代(58.9%)では約6割、60代(82.8%)では8割以上にも上ります。

夫婦の寝室は一緒か？

夫婦同じ部屋で寝ている人は全体の7割。夫婦同じ部屋で寝ている割合が最も高いのは30代(80%)で、最も低いのは60代(60%)。50代以上になると、約3分の1の夫婦は別々の部屋で寝るようになる。



夫婦の寝室は一緒か、を尋ねました。

その結果、「同じ部屋で布団」(47.5%)が半数弱と最も多く、「同じ部屋でダブルベッド」(12.5%)と「同じ部屋でシングルベッド」(10.9%)をあわせると、**7割(70.9%)の夫婦は同じ部屋で寝ていることがわかりました。**

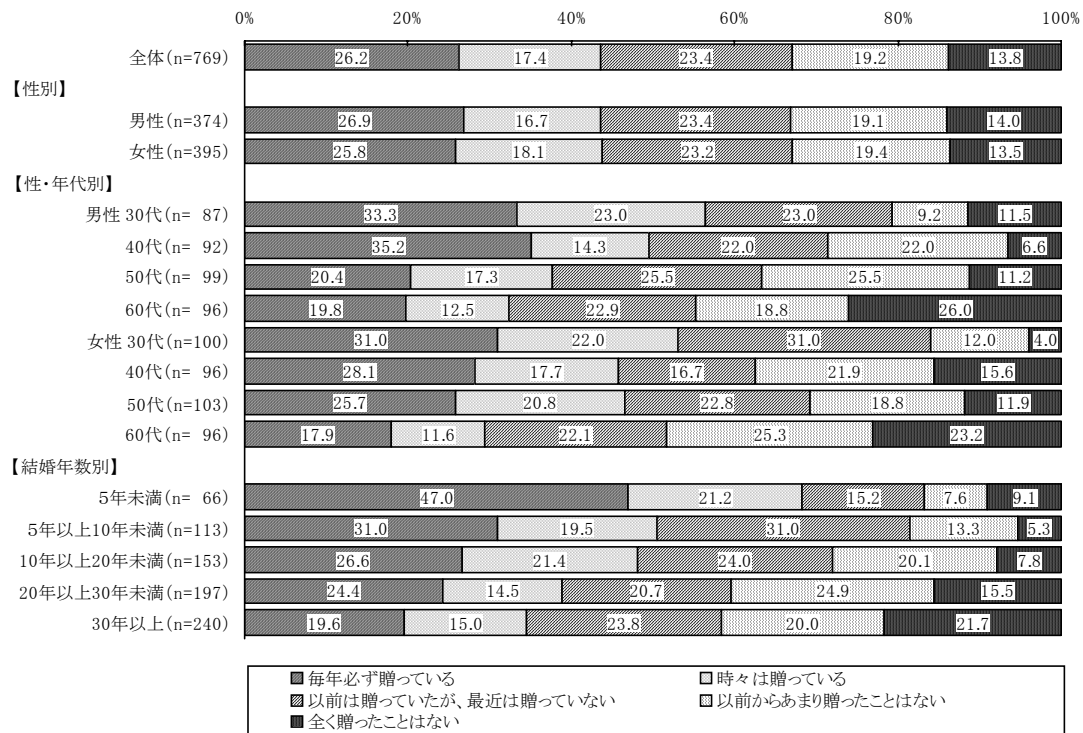
年代別にみると、**夫婦同じ部屋で寝ている人は、30代で80.1%と最も多く、年代が高くなるにつれて少なくなり、最も少ない60代では60.9%であることがわかりました。**また、「別々の部屋でベッド」「別々の部屋で布団」をあわせると、**50代で32.6%、60代で38.5%と、50代以上になると3割を超え、これらの年代の約3分の1の夫婦は別々の部屋で寝ていることがみてとれます。**

子ども有無別にみると、夫婦同じ部屋で寝ている人は、子どもがいる(68.6%)人よりも、子どもがいない(82.7%)人の方が多いたことがわかりました。

配偶者の誕生日にプレゼントを贈っているか？

配偶者にプレゼントを「毎年必ず贈っている」人は約4分の1(26%)。その一方、約3分の1(33%)の人は、プレゼントを贈る習慣を持たない。

図表4 配偶者の誕生日にプレゼントを贈っているか？(性別、性・年代別、結婚年数別)



配偶者の誕生日にプレゼントを贈っているか、を尋ねました。

その結果、「毎年必ず贈っている」人は26.2%と、約4分の1は配偶者の誕生日にプレゼントを必ず贈っていることがわかりました。その一方で、「全く贈ったことはない」(13.8%)と「以前からあまり贈ったことはない」(19.2%)をあわせると、約3分の1(33.0%)の人はこのような習慣を持っていないようです。

性別にみると、各項目とも男女差はほとんどないことがわかりました。

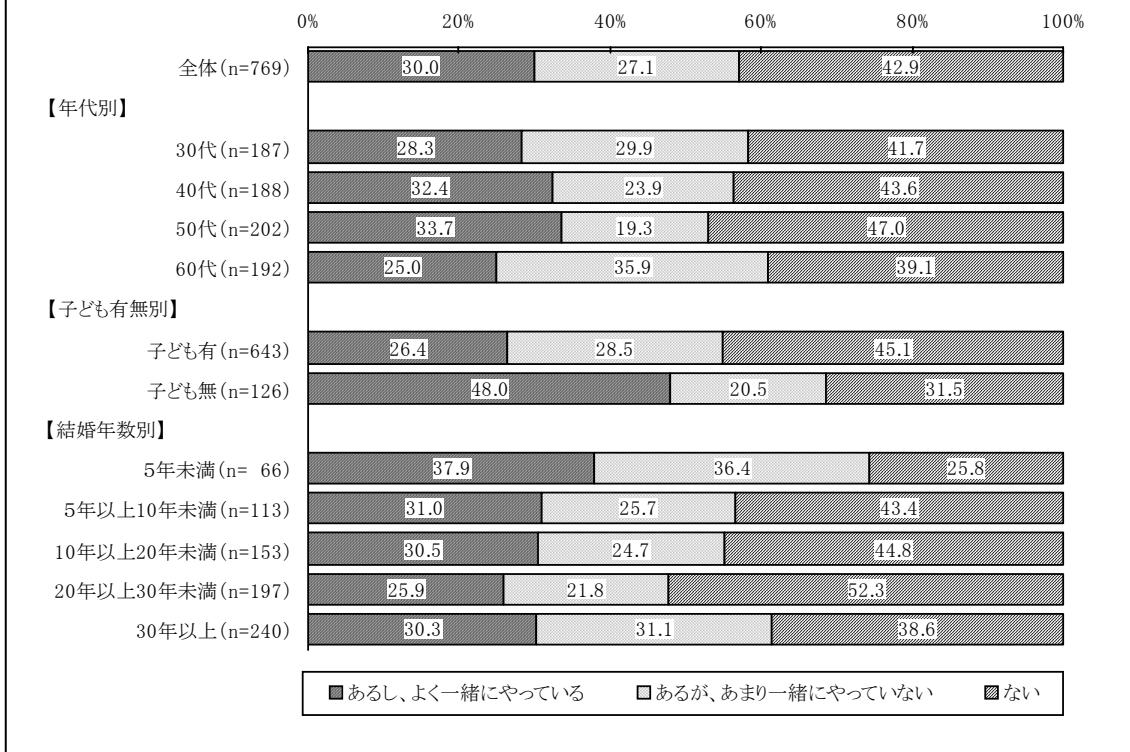
性・年代別にみると、男性については、「毎年必ず贈っている」人は30代(33.3%)と40代(35.2%)では3分の1以上いますが、50代(20.4%)と60代(19.8%)では5分の1になります。また、「贈ったことはない」(「全く贈ったことはない」+「以前からあまり贈ったことはない」)人は、年代が高くなるにつれて多くなり、最も多い60代では44.8%と半数近くにもなります。その一方で、女性については、「毎年必ず贈っている」人は年代が高くなるにつれて少なくなります。また、「贈ったことはない」人が最も多い60代では48.5%もあり、同年代の男性に比べて多いことがみてとれます。

結婚年数別にみると、「毎年必ず贈っている」人は、結婚5年未満(47.0%)で最も多いことがみてとれます。

夫婦共通の趣味はあるか？

夫婦共通の趣味がある人は6割近く(57%)いるが、「よく一緒にやっている」人は3割(30%)しかいない。「よく一緒にやっている」人が最も多い年代は50代(33%)で、最も少ない年代は60代(25%)。

図表5 夫婦共通の趣味はあるか？(年代別、子ども有無別、結婚年数別)



夫婦共通の趣味はあるか、を尋ねました。

その結果、「あるし、よく一緒にやっている」人は3割(30.0%)で、「あるが、あまり一緒にやっていない」(27.1%)をあわせると、夫婦共通の趣味を持っている人は6割近く(57.1%)いることがわかりました。

年代別にみると、「あるし、よく一緒にやっている」人が最も多いのは50代(33.7%)で、最も少ないのは60代(25.0%)でした。また、60代では、「あるが、あまり一緒にやっていない」(35.9%)の人が他の年代に比べて多く、60代になると、趣味はあっても一緒にほしくない夫婦が増えることがみてとれます。

子ども有無別にみると、子どもがいる人よりも、子どもがいない人の方が「あるし、よく一緒にやっている」(48.0%)人が多いことがわかりました。

結婚年数別にみると、結婚年数が短い方が「あるし、よく一緒にやっている」「あるが、あまり一緒にやっていない」とともに多い傾向があることがみてとれます。

夫婦共通の趣味は何か？

全ての年代で第1位は「旅行」。30代(57%)と40代(58%)では過半数、50代(72%)と60代(70%)では7割以上が夫婦共通の趣味にしている。

30代では「スポーツ」(33%)、40代では「グルメ(食べ歩き)」(42%)、50代では「ドライブ」(37%)、60代では「温泉めぐり」(43%)が上位に。

図表6 夫婦共通の趣味は何か？(年代別)＜複数回答＞

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体	439	旅行 64.5%	映画・ビデオ鑑賞 35.0%	温泉めぐり 34.5%	グルメ(食べ歩き) 32.7%	ドライブ 30.2%
【年代別】30代	109	旅行 57.8%	映画・ビデオ鑑賞 39.4%	スポーツ 33.9%	ドライブ 28.4%	温泉めぐり 22.9%
40代	106	旅行 58.5%	グルメ(食べ歩き) 42.5%	映画・ビデオ鑑賞 40.6%	温泉めぐり 34.0%	ドライブ 25.5%
50代	107	旅行 72.0%	映画・ビデオ鑑賞 39.3%	ドライブ・温泉めぐり 37.4%		グルメ(食べ歩き) 31.8%
60代	117	旅行 70.1%	温泉めぐり 43.6%	グルメ(食べ歩き) 34.2%	散歩 33.3%	ドライブ 29.9%

注:図表5において、「あるし、よく一緒にやっている」「あるが、あまり一緒にやっていない」と回答した人が対象。

夫婦共通の趣味が「あるし、よく一緒にやっている」「あるが、あまり一緒にやっていない」と回答した人に対し、その趣味は何か、を複数回答で尋ねました。

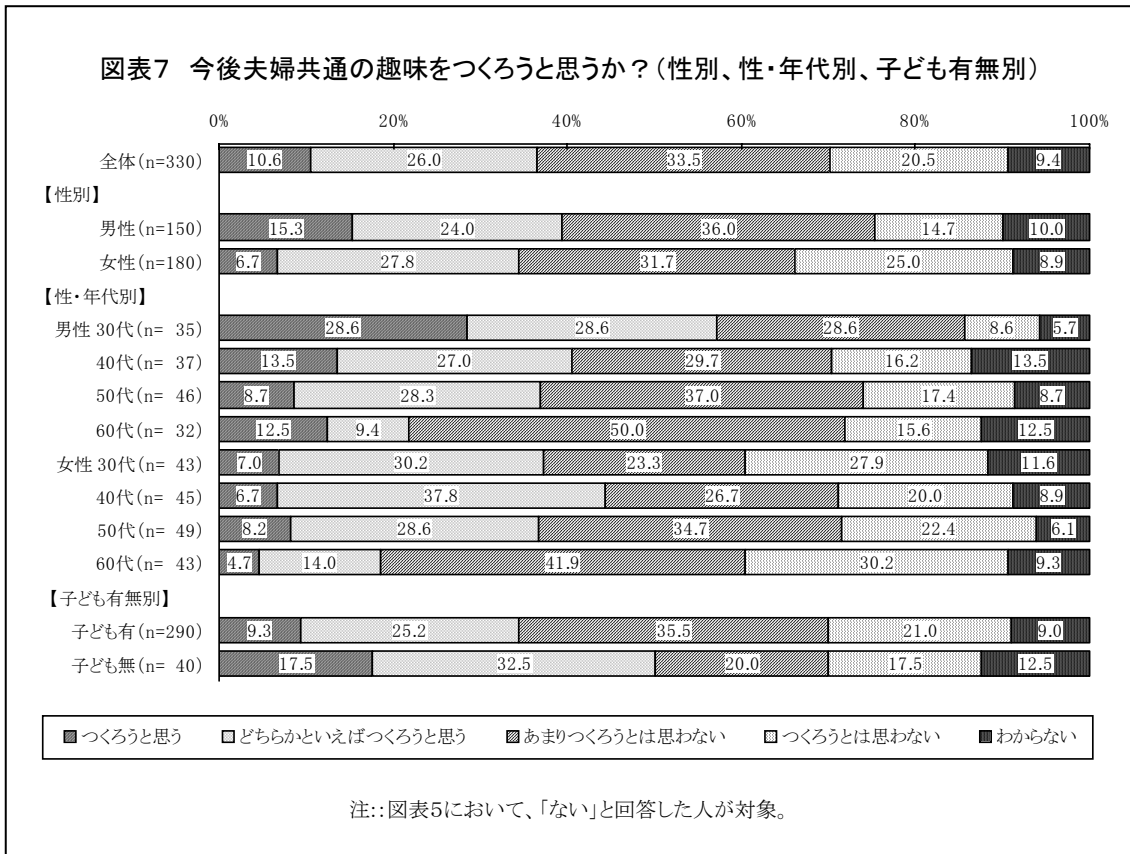
その結果、「旅行」(64.5%)が最も多く、次いで「映画・ビデオ鑑賞」(35.0%)、「温泉めぐり」(34.5%)、「グルメ(食べ歩き)」(32.7%)、「ドライブ」(30.2%)の順になりました。

年代別にみると、全ての年代において第1位は「旅行」で、30代(57.8%)と40代(58.5%)では過半数、50代(72.0%)と60代(70.1%)では7割以上が夫婦共通の趣味にしていることがわかりました。

また、年代別の特徴としては、30代の第3位に「スポーツ」(33.9%)、40代の第2位に「グルメ(食べ歩き)」(42.5%)、50代の第3位に「ドライブ」(37.4%)、60代の第2位に「温泉めぐり」(43.6%)が入っていることがみてとれます。

今後夫婦共通の趣味をつくろうと思うか？

夫婦共通の趣味づくりに前向きな人は、3分の1以上(36%)いる。
趣味づくりに前向きな人は、女性(34%)よりも男性(39%)の方が多い。
前向きな人が最も多いのは、男性では30代(57%)、女性では40代(44%)で、最も少ないのは男女ともに60代(男性21%・女性18%)。



夫婦共通の趣味が「ない」と回答した人に対し、今後夫婦共通の趣味をつくろうと思うか、を尋ねました。

その結果、“つくろうと思う”(「つくろうと思う」(10.6%) + 「どちらかといえばつくろうと思う」(26.0%))人は36.6%と、夫婦共通の趣味づくりに前向きな人は3分の1以上いることがわかりました。

性別にみると、“つくろうと思う”人は、女性(34.5%)よりも男性(39.3%)の方が多いことがわかりました。

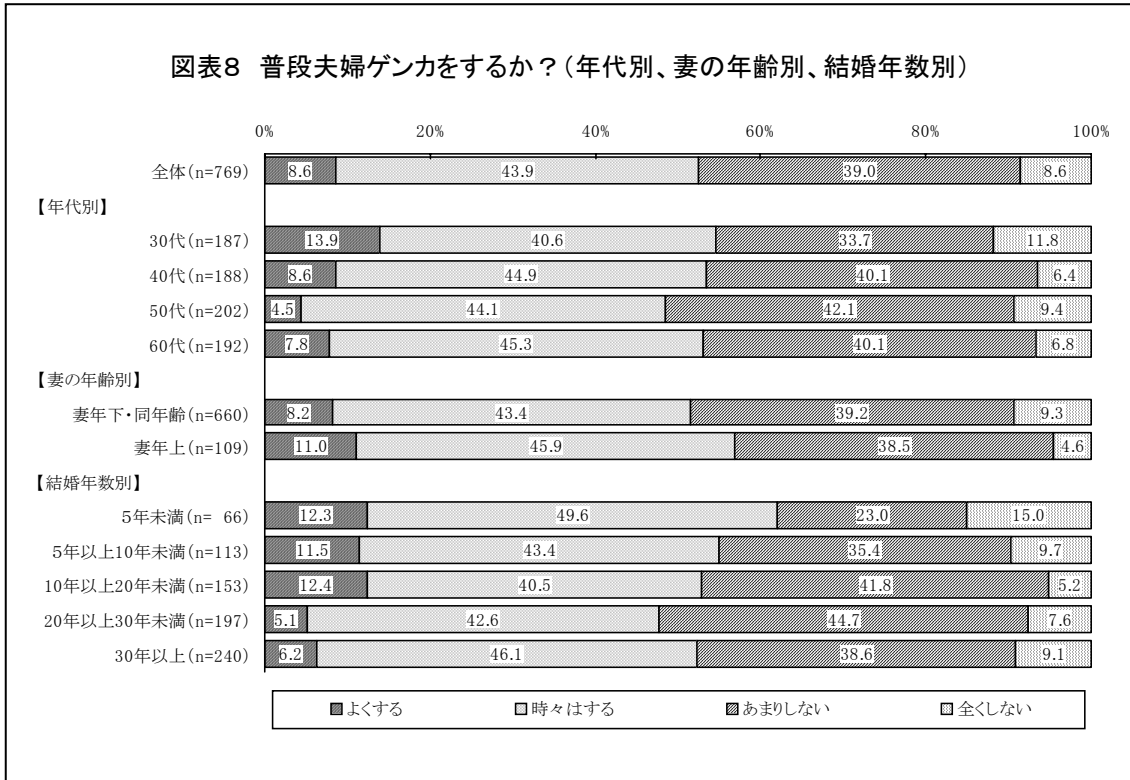
性・年代別にみると、“つくろうと思う”人が最も多いのは、男性では30代(57.2%)、女性では40代(44.5%)で、最も少ないのは男女ともに60代(男性21.9%・女性18.7%)でした。

子ども有無別にみると、子どもがいる人よりも、子どもがいない人の方が夫婦共通の趣味づくりに前向きなことがみてとれます。

普段夫婦ゲンカをするか？

「よくする」(8%)と「時々はする」(43%)をあわせると、過半数(52%)の人は普段夫婦ゲンカをしている。夫婦ゲンカが最も多いのは30代(54%)で、最も少ないのは50代(48%)。妻が年上の方が、夫婦ゲンカをする人は多い傾向がある。

図表8 普段夫婦ゲンカをするか？(年代別、妻の年齢別、結婚年数別)



普段夫婦ゲンカをするか、を尋ねました。

その結果、「夫婦ゲンカをする」(「よくする」(8.6%) + 「時々はする」(43.9%))人は52.5%と、過半数は普段夫婦ゲンカをしていることがわかりました。

年代別にみると、「夫婦ゲンカをする」人が最も多いのは30代(54.5%)で、最も少ないのは50代(48.6%)であることがわかりました。また、30代では、「よくする」(13.9%)が最も多い一方で、「全くしない」(11.8%)も最も多く、この年代には二極化の傾向があることがみてとれます。

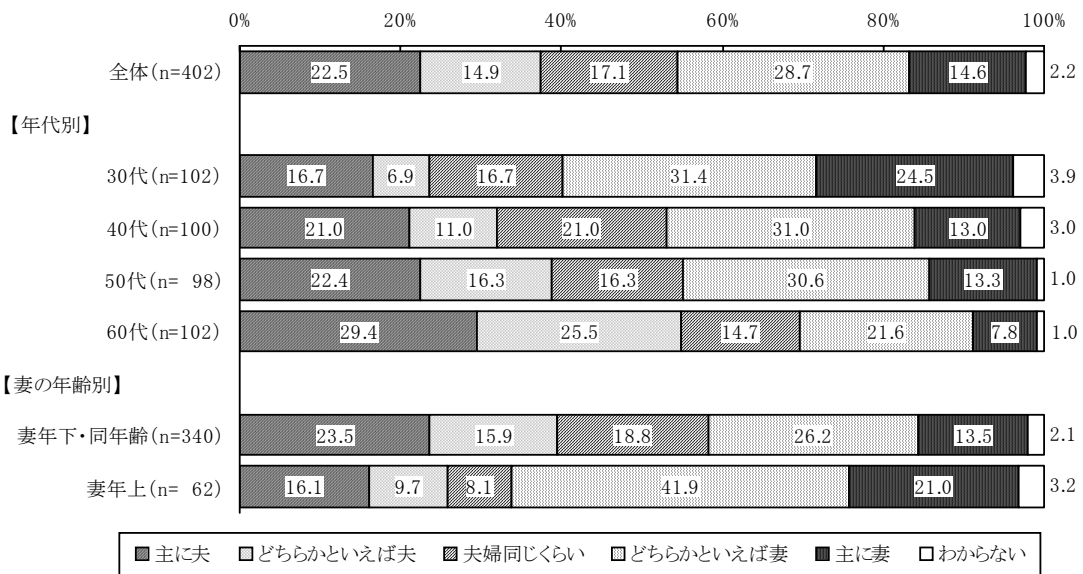
妻の年齢別にみると、「夫婦ゲンカをする」人は、「妻年下・同年齢」(51.6%)よりも、「妻年上」(56.9%)の方が多いたことがわかりました。

結婚年数別にみると、「夫婦ゲンカをする」人は、結婚年数が長くなるにつれて少なくなる傾向がみてとれます。

夫婦ゲンカではどちらが先に怒り出すか？

先に怒り出すのは“夫が先”(37%)よりも“妻が先”(43%)の方が多い。低い年代ほど“妻が先”は多くなり、最も多い30代では過半数(55.9%)に。60代だけが、“妻が先”(29%)よりも“夫が先”(54.9%)の方が多い。

図表9 夫婦ゲンカの際、先に怒り出すのはどちらが多いか？(年代別、妻の年齢別)



注:図表8において、「よくする」「時々はする」と回答した人が対象。

夫婦ゲンカを「よくする」「時々はする」と回答した人に対し、夫婦ゲンカの際、先に怒り出すのはどちらが多いか、を尋ねました。

その結果、「夫婦同じくらい」と回答した人は17.1%しかおらず、“夫が先”(「主(主)に夫」(22.5%) + 「どちらかといえば夫」(14.9%))が37.4%、“妻が先”(「主(主)に妻」(14.6%) + 「どちらかといえば妻」(28.7%))が43.3%と、妻が先に怒り出す方が多いことがわかりました。

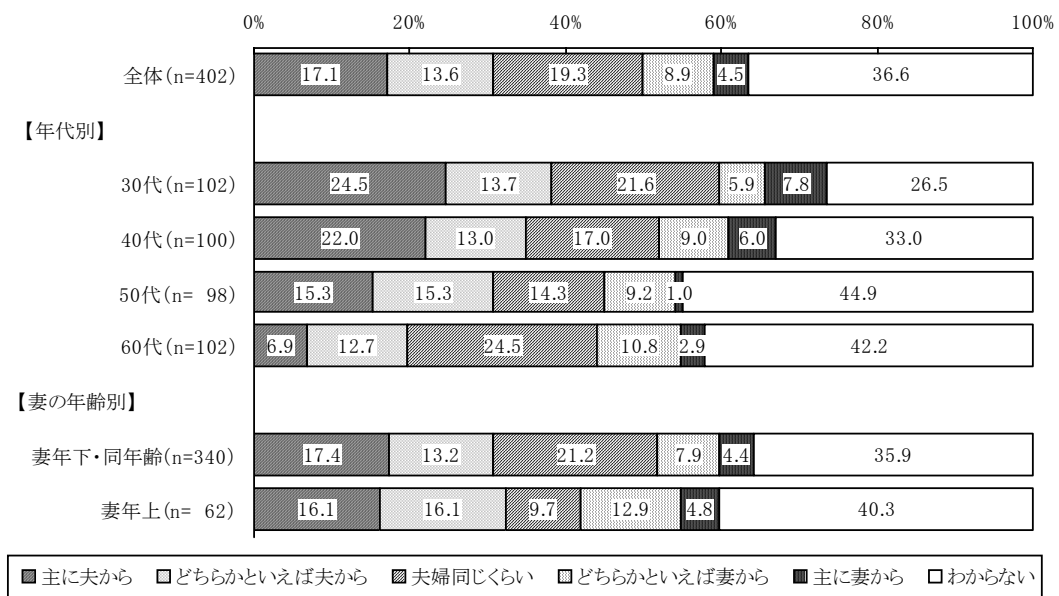
年代別にみると、年代が低くなるほど“妻が先”は多くなり、最も多い30代では過半数(55.9%)が先に妻が怒り出すことがみてとれます。また、各年代の“妻が先”と“夫が先”を比較すると、“妻が先”(29.4%)よりも“夫が先”(54.9%)の方が多いい年代は60代だけでした。

妻の年齢別にみると、「妻年下・同年齢」では、“夫が先”(39.4%)と“妻が先”(39.7%)はほぼ同じですが、「妻年上」では、“夫が先”(25.8%)に比べて“妻が先”(62.9%)は倍以上多くなることがみてとれます。

夫婦ゲンカの仲直りではどちらから謝るか？

仲直りのきっかけは“妻から”(13%)より“夫から”(30%)謝る方が多い。“夫から”が最も多いのは30代(38%)で、最も少ないのは60代(19%)。“妻から”の割合は年代間の差が小さく、各年代とも1割強しかいない。

図表 10 夫婦ゲンカ後の仲直りはどちらから謝ることが多いか？(年代別、妻の年齢別)



注: 図表8において、「よくする」「時々はする」と回答した人が対象。

夫婦ゲンカを「よくする」「時々はする」と回答した人に対し、ケンカ後の仲直りはどちらから謝ることが多いか、を尋ねました。

その結果、「夫婦同じくらい」と回答した人は19.3%しかおらず、“夫から”(「主に夫から」(17.1%) + 「どちらかといえば夫から」(13.6%))は30.7%、“妻から”(「主に妻から」(4.5%) + 「どちらかといえば妻から」(8.9%))は13.4%と、先に謝るのは夫の方が多いことがわかりました。また、3分の1以上の人が「わからない」(36.6%)と回答していることから、自然に仲直りする夫婦が多いこともみてとれます。

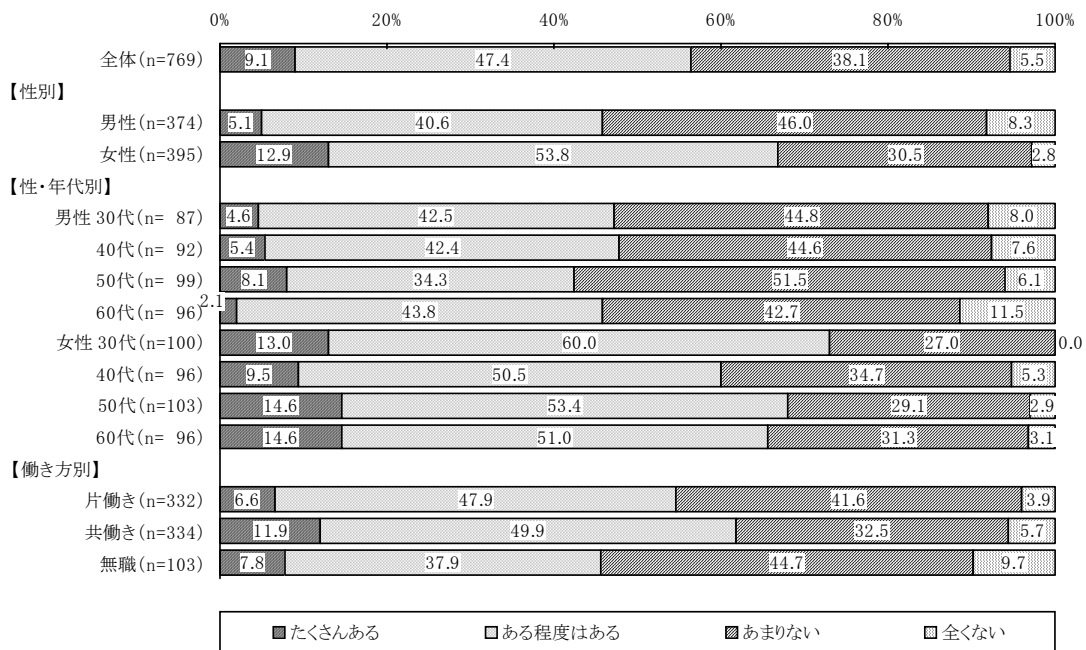
年代別にみると、“夫から”は年代が低くなるほど多くなり、最も多い30代では4割近く(38.2%)になるのに対し、“妻から”の割合は年代間の差が小さく、各年代とも1割強でした。また、50代以上になると「わからない」が4割以上になり、自然に仲直りする夫婦が増えることがみてとれます。

妻の年齢別にみると、「夫婦同じくらい」は、「妻年上」(9.7%)よりも「妻年下・同年齢」(21.2%)の方が多くことがみてとれます。

配偶者に対して不満はあるか？

過半数(56%)の人は、配偶者に対して不満を持っている。
 不満がある人は、男性(45%)よりも女性(66%)の方が多い。
 配偶者に対して最も不満がある年代は、30代の女性(73%)で7割以上。

図表 11 配偶者に対して不満はあるか？(性別、性・年代別、働き方別)



配偶者に対して不満はあるか、を尋ねました。

その結果、“不満はある”(「たくさんある」(9.1%) + 「ある程度はある」(47.4%))人は56.5%と、過半数は配偶者に対して不満を持っていることがわかりました。

性別にみると、“不満はある”人は、男性(45.7%)よりも女性(66.7%)の方が多く、その差は21ポイントにもなります。また、女性では、「たくさんある」人が1割以上(12.9%)いることから、配偶者に不満を持っている人は男性よりも女性に多いことがわかりました。

性・年代別にみると、“不満はある”人は、全ての年代において男性よりも女性の方が多いことがみてとれます。また、女性において“不満はある”人が最も多いのは30代(73.0%)で、7割以上の女性は配偶者に不満を持っていることがわかりました。

働き方別にみると、“不満はある”人は、片働き(54.5%)よりも共働き(61.8%)の方が多いことがみてとれます。

配偶者に対する不満の原因は何か？

最も多いのは「性格全般」で、男女・年代を問わず全てにおいて第1位。男性では「性生活」、女性では「家事の役割分担」「収入の低さ」が上位に。「性格全般」の割合は、年代が高くなるにつれて増える傾向がある。

図表 12 配偶者に対する不満の大きな原因は何か？（性別、性・年代別）

	n	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
		項目	割合	項目	割合	項目	割合	項目	割合	項目	割合
全体	434	性格全般	52.0%	金銭面の価値観の違い	32.2%	家事の役割分担	24.6%	子育ての価値観の違い	18.6%	性生活	17.7%
男性	203	性格全般	57.9%	金銭面の価値観の違い	31.6%	性生活	25.7%	家事の役割分担	19.9%	子育ての価値観の違い	18.7%
女性	263	性格全般	47.9%	金銭面の価値観の違い	32.7%	家事の役割分担	27.4%	子育ての価値観の違い	18.6%	収入の低さ	17.9%
男性 30代	41	性格全般	48.8%	性生活	26.8%	家事の役割分担	24.4%	金銭面の価値観の違い	22.0%	子育ての価値観の違い	17.1%
40代	44	性格全般	52.3%	金銭面の価値観の違い	27.3%	性生活	25.0%	子育ての価値観の違い・家事の役割分担		20.5%	
50代	42	性格全般	71.4%	金銭面の価値観の違い	38.1%	性生活	31.0%	子育ての価値観の違い	26.2%	家事の役割分担	16.7%
60代	44	性格全般	59.1%	金銭面の価値観の違い	38.6%	性生活	20.5%	家事の役割分担	18.2%	自分の健康と配偶者との関係の悪さ	13.6%
女性 30代	73	性格全般・金銭面の価値観の違い		39.7%	家事の役割分担	26.0%	子育ての役割分担	20.5%	性生活	19.2%	
40代	57	性格全般	42.1%	金銭面の価値観の違い	28.1%	子育ての価値観の違い	26.3%	収入の低さ・配偶者の家族と自分との関係の悪さ		19.3%	
50代	70	性格全般	52.9%	金銭面の価値観の違い	35.7%	家事の役割分担	27.1%	配偶者の健康と自分との関係の悪さ	24.3%	収入の低さ	20.0%
60代	63	性格全般	57.1%	家事の役割分担	39.7%	金銭面の価値観の違い	25.4%	子育ての価値観の違い	19.0%	精神的暴力	15.9%

注：図表 11 において、「たくさんある」「ある程度はある」と回答した人が対象。

配偶者に対する不満が「たくさんある」「ある程度はある」と回答した人に対し、その不満の大きな原因は何か、を尋ねました。

その結果、「**性格全般**」（52.0%）が過半数と最も多く、次いで「**金銭面の価値観の違い**」（32.2%）、「**家事の役割分担**」（24.6%）、「**子育ての価値観の違い**」（18.6%）、「**性生活**」（17.7%）の順になりました。

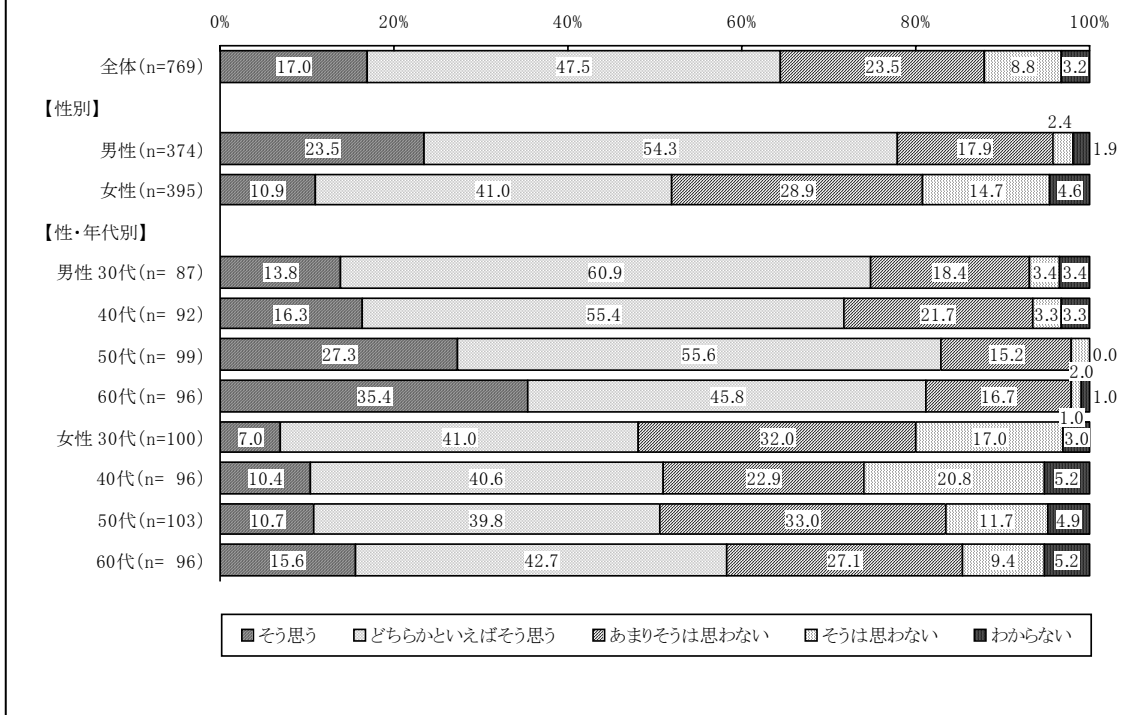
性別にみると、**男女差が顕著な項目は、男性では第3位に「性生活」（25.7%）、女性では第5位に「収入の低さ」（17.9%）が入っていることなどがあげられます。**また、「**家事の役割分担**」については、**男性（19.9%）よりも女性（27.4%）の方が不満に感じている人は多いこと**もみてとれます。

性・年代別にみると、各年代の男女を問わず第1位である「性格全般」に不満を持つ人は、年代が高くなるにつれて増える傾向がみてとれます。また、「性生活」が上位にきているのは、女性では30代（19.2%）だけですが、男性では全年代に及んでいます。

配偶者は自分を理解してくれていると思うか？

6割以上(64%)の人は、配偶者は理解してくれていると思っている。
 配偶者は理解してくれていると思っている人は、女性(51%)よりも男性(77%)に多く、特に多いのは50代(82%)と60代(81%)の男性。

図表 13 配偶者は、自分の思いを言わなくても理解してくれていると思うか？(性別、性・年代別)



配偶者は、自分の思いを言わなくても理解してくれていると思うか、を尋ねました。

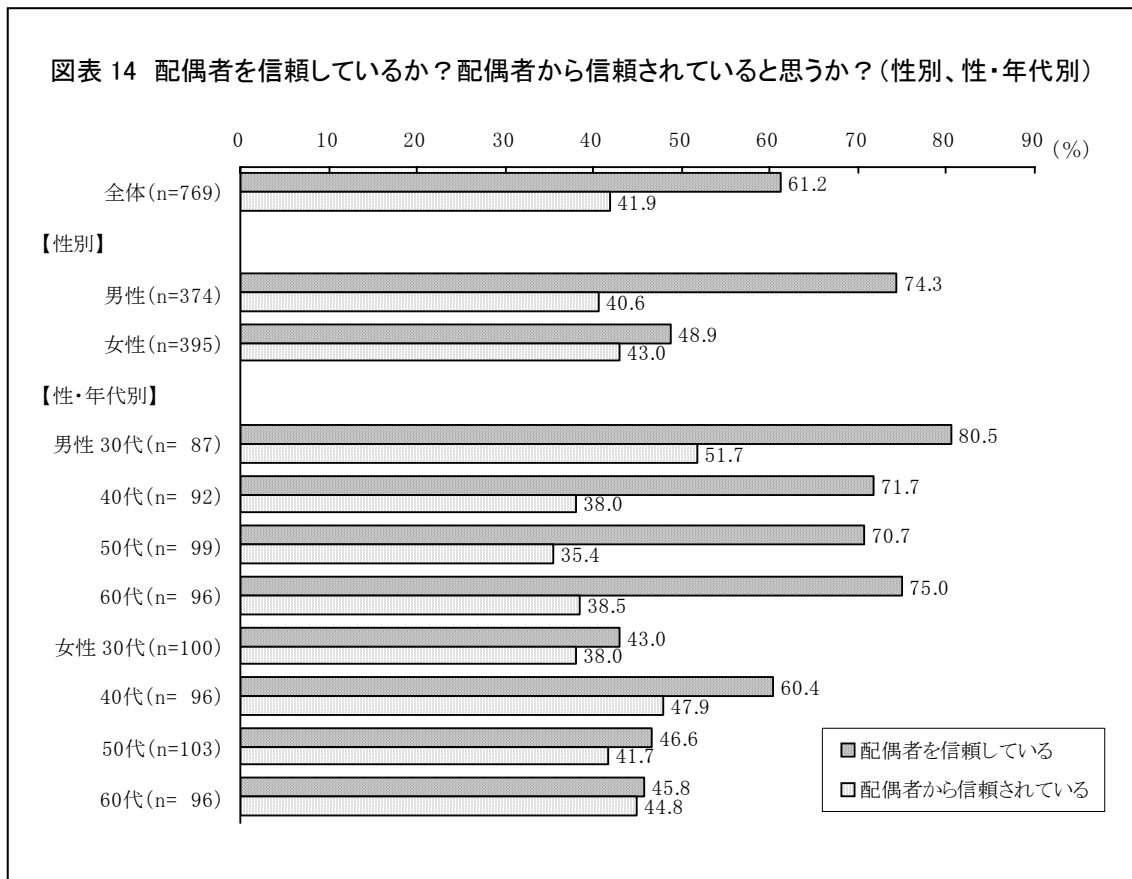
その結果、“理解していると思う”(「そう思う」(17.0%) + 「どちらかといえばそう思う」(47.5%))人は64.5%と、6割以上が自分の思いを口に出さなくても配偶者は理解してくれていると思っていることがわかりました。

性別にみると、“理解していると思う”人は、女性では過半数(51.9%)なのに対し、男性では8割近く(77.8%)と大きく差があり、配偶者は自分のことを理解してくれていると考えているのは男性の方が多いことがわかりました。

性・年代別にみると、“理解していると思う”人は、男女ともに年代が高くなるにつれて増える傾向があります。特に、“理解していると思う”人が多いのは男性の50代(82.9%)と60代(81.2%)で、これらの年代の8割以上の男性が、妻は自分のことを理解してくれていると考えていることがみとれます。

配偶者を信頼しているか？

「配偶者を信頼している」人は約6割(61%)、「配偶者から信頼されている」と思っている人は約4割(41%)と、信頼している人の方が多い。「配偶者を信頼している」人は、女性(48%)より男性(74%)の方が多い。



配偶者を信頼しているか、また、配偶者から信頼されていると思うか、を尋ねました。

その結果、約6割の人が「配偶者を信頼している」(61.2%)のに対し、「配偶者から信頼されている」(41.9%)と思っている人は約4割しかいないことがわかりました。

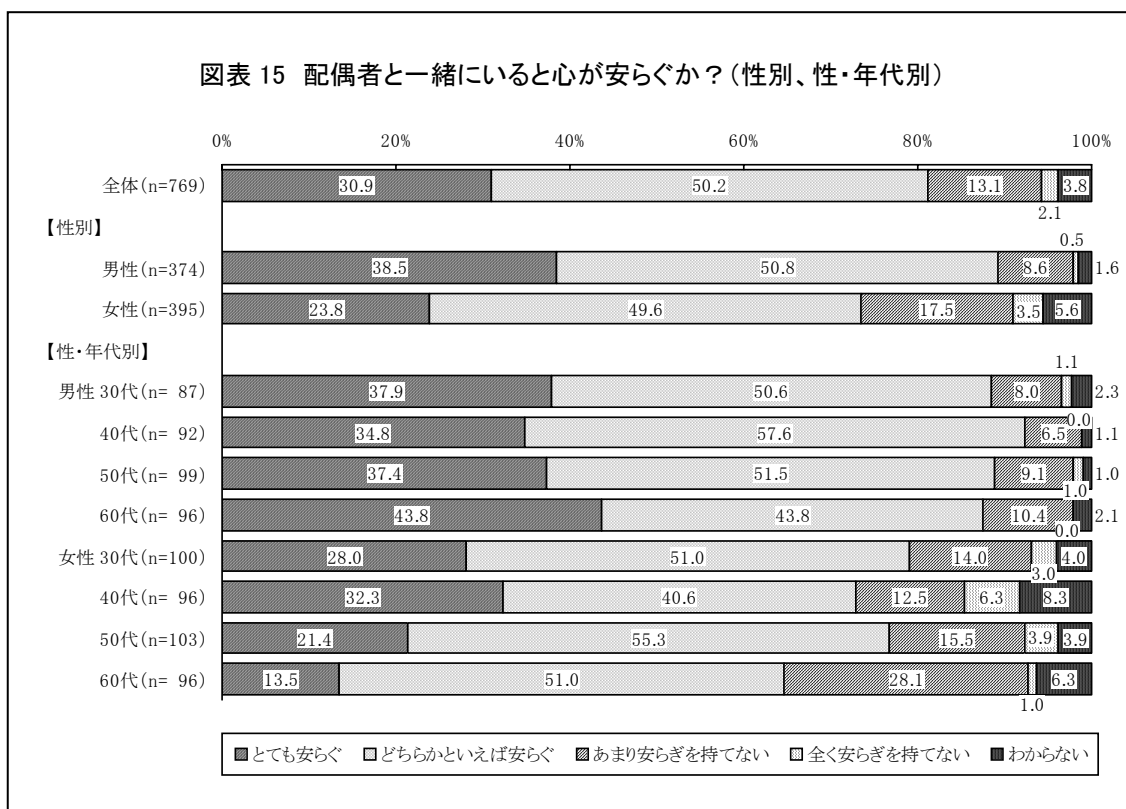
性別にみると、「配偶者から信頼されている」と思っている人は男女であまり差はありませんが、「配偶者を信頼している」人は、女性(48.9%)よりも男性(74.3%)の方がかなり多いことがわかりました。

性・年代別にみると、30代の男性において、「配偶者を信頼している」(80.5%)、「配偶者から信頼されている」(51.7%)ともに最も多い一方で、これに相對する30代の女性では、「配偶者を信頼している」(43.0%)、「配偶者から信頼されている」(38.0%)ともに最も少なくなっており、両者の意識には大きな差があることがみてとれます。

配偶者と一緒にいると心が安らぐか？

約8割(81%)の人は、配偶者と一緒にいると心が安らぐと感じており、女性(73%)よりも男性(89%)の方が多い。「とても安らぐ」が最も多いのは60代男性(43%)で、最も少ないのは60代女性(13%)。

図表 15 配偶者と一緒にいると心が安らぐか？(性別、性・年代別)



配偶者と一緒にいると心が安らぐか、を尋ねました。

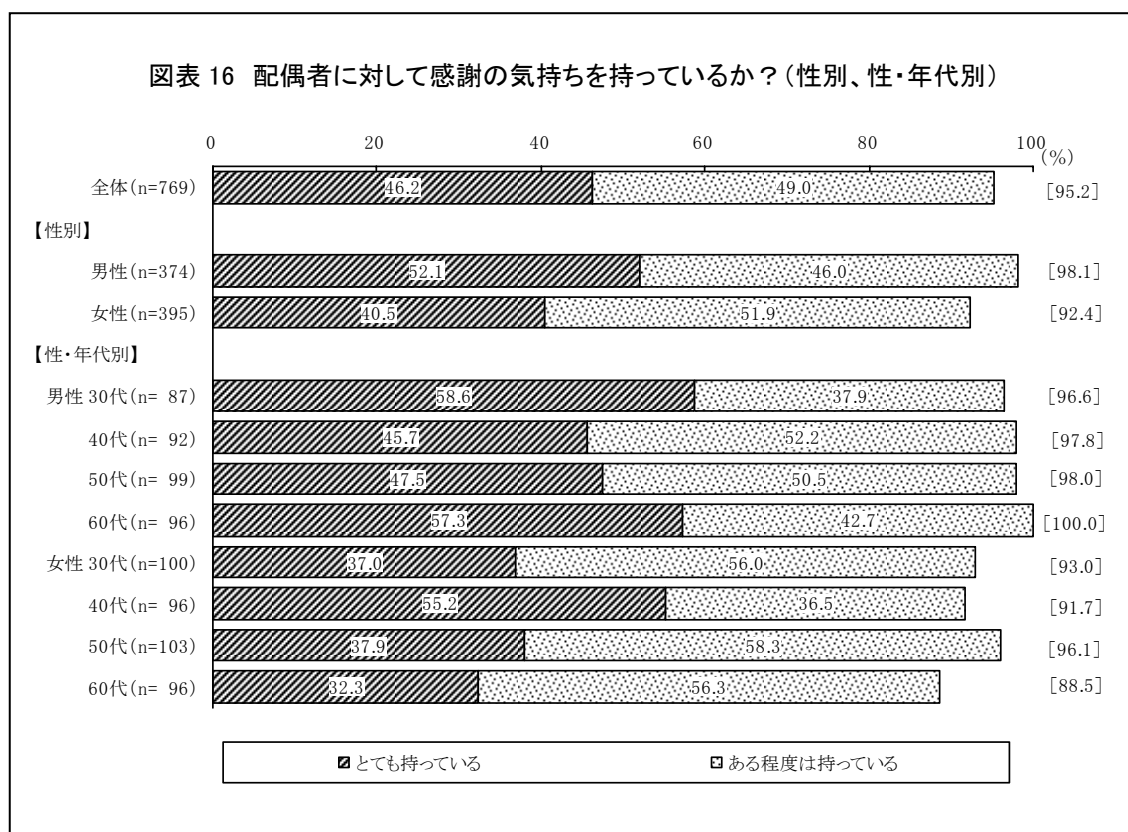
その結果、「心が安らぐ」(「とても安らぐ」(30.9%) + 「どちらかといえば安らぐ」(50.2%))人は81.1%と、約8割は配偶者と一緒にいると心が安らぐと感じていることがわかりました。

性別にみると、「心が安らぐ」人は、女性(73.4%)では7割強なのに対して、男性(89.3%)では9割近くいます。また、「とても安らぐ」人も、女性(23.8%)より男性(38.5%)の方が多くなっており、配偶者と一緒にいると心が安らぐと感じる人は、女性よりも男性の方が多くことがみてとれます。

性・年代別にみると、「心が安らぐ」人は、男性では年代を問わず9割前後いますが、女性では年代が高くなるにつれて少なくなる傾向がみてとれます。また、「とても安らぐ」人が最も多いのは60代の男性(43.8%)ですが、相対する60代の女性(13.5%)はその逆で最も少なくなっています。さらに、60代の女性は「あまり安らぎを持ってない」(28.1%)の人が最も多いことから、配偶者に安らぎを感じていないことがみてとれます。

配偶者には感謝しているか？

95%とほとんどの人が、配偶者に対して感謝の気持ちを持っている。
感謝の気持ちを「とても持っている」人は、女性(40%)よりも男性(52%)の方が多く、年代別では、男性の30代(58%)と60代(57%)で多いのに対し、女性の30代(37%)と60代(32%)では少ない。



配偶者に対して感謝の気持ちを持っているか、を尋ねました。

その結果、「持っている」（「とても持っている」(46.2%) + 「ある程度は持っている」(49.0%)）人は95.2%と、ほとんどが配偶者に対して感謝の気持ちを持っていることがわかりました。

性別にみると、「持っている」人は、女性(92.4%)よりも男性(98.1%)の方が多く、また、「とても持っている」人も、女性の4割(40.5%)に比べ、男性(52.1%)では半数を超えています。これらから、配偶者への感謝の気持ちは、男性の方が強く持っていることがみてとれます。

性・年代別にみると、「とても持っている」人は、男性では30代(58.6%)と60代(57.3%)で過半数と多いのに対し、女性で最も多いのは40代(55.2%)で、男性で多い30代(37.0%)と60代(32.3%)ではむしろ少ないことがみてとれます。

《研究員のコメント》

本アンケートでは、30代以上の若年夫婦から60代までの中高年夫婦を対象に、日常生活における夫婦関係の実態や配偶者に対する思いなどを調査しました。調査結果からは、日常生活では直接的に言うことの少ない配偶者への不満や感謝の気持ちなど、夫婦関係の一端を示す現状が少なからず垣間見ることができました。

日常生活の慣習については、配偶者の呼び方は、男性では「ママ・お母さん」、女性でも「パパ・お父さん」が主流で、男性の3分の1、女性の約半数が普段この呼び方で呼んでいます。また、夫婦で食事を毎日一緒に食べている人は、朝ごはんでは4割強、晩ごはんでは5割強いました。夫婦の寝室については、30代では8割が一緒の部屋で寝ていますが、その割合は年代とともに低くなり、60代では6割にまで減少します。配偶者への誕生日プレゼントについては、約4分の1が毎年必ず贈っている一方で、3分の1はこのような習慣を持っていないことも明らかになりました。

夫婦共通の趣味については、約6割の人が夫婦共通の趣味があると回答しましたが、実際にその趣味を夫婦で行っている人は、そのうちの半分しかいませんでした。また、夫婦共通の趣味がない人に今後の意向を尋ねると、共通の趣味づくりに前向きな人は約3分の1しかおらず、特に60代では2割前後と、夫婦共通の趣味をつくろうと考える人は少ないことがわかりました。

夫婦ゲンカの実態については、夫婦ゲンカを「よくする」人は1割未満しかいませんが、「時々はある」をあわせると、約半数は普段夫婦ゲンカをしています。また、夫婦ゲンカの際、先に怒り出すのは妻、先に謝るのは夫の方が多い傾向があることから、夫婦ゲンカにおける女性の地位の高さがみられ、この傾向は若い年代ほど顕著でした。

配偶者に対する不満については、過半数の人は配偶者に不満を持っており、男性よりも女性の方が不満度はかなり高いことがわかりました。中でも特に不満度が高いのは、育児期にある30代の女性で、7割以上が配偶者に不満を持っています。また、配偶者は自分のことを理解してくれていると考えている人は男性に多く、特に、50代以上の男性では8割以上がそう考えています。

配偶者との信頼関係については、「配偶者から信頼されている」と思っている人の割合に男女差はありませんが、「配偶者を信頼している」人は男性よりも女性の方がかなり少なく、「夫を信頼していない妻」といった姿がみてとれます。また、「配偶者と一緒にいると心が安らぐか」「配偶者に感謝の気持ちを持っているか」といった質問に対しては、心が安らぐ人は8割以上、感謝している人は9割以上と、多くの人が配偶者の存在を大切に感じていることがわかりました。特に、これらの割合は女性よりも男性の方が高く、“妻を心の拠りどころ”にしている男性は多いことを表しています。

以上のように、「配偶者と一緒にいると心が安らぐ」や「配偶者に感謝の気持ちを持っている」といった思いに多くの人がプラスの反応を示していることから、内面的につながっている夫婦は数多くいるといえます。しかしながら、これらの意識には男女差があり、妻に対する夫の思いの強さに比べると、夫に対する妻の思いはそれほど強くはなく、さらには、妻の思いは夫の思いとは逆に、年代が高くなるにつれて弱まっていく傾向があります。また、“配偶者に不満がある”“配偶者を信頼していない”など、配偶者にマイナスの感情を持っているのは女性の方が多いことも見逃せない事実です。良い夫婦関係を維持するためには、男性側のより一層の努力が必要なのかもしれません。

(研究開発室 副主任研究員 丹野 裕人)